

# さくらマネー通信 No.92

2025年  
3月号

～気軽に読めて役に立つマネー情報をお届けします！～

## 特集 児童手当の拡充、未申請の方は今年3月末までに申請を！

児童手当が2024年10月より拡充されています。拡充要件に当てはまる方で未申請の方が昨年10月分から受け取るには、2025年3月末までの申請が必要です。主な内容と変更点を確認していきましょう。

- ・支給額：3歳未満は一人当たり月15,000円、3～18歳は月10,000円、第3子以降は月30,000円。
- ・所得制限の撤廃：所得制限がなくなり、対象年齢の子をもつすべての家庭が対象に。
- ・支給対象年齢の延長：従来は中学生（15歳到達後の最初の年度末）までが支給対象でしたが、高校生年代（18歳到達後の最初の年度末）にまで延長。
- ・第3子以降の支給額の増額：第3子以降の支給額が月15,000円から月30,000円に増額。多子のカウント方法も変わり、親の経済的負担がある場合は、上の子が22歳年度末（従来は18歳年度末）までがカウント対象に。支給回数も年3回から6回に変更。

拡充の対象となるのは、「従来の所得制限により児童手当を全額受けていなかった方」「高校生年代の子がいる方」「多子世帯の方」となります。児童手当を受けるには申請が必要です。申請方法については、お住まいの市区町村のホームページ等で詳細を確認してください。



## ? マネークイズのコーナー

100万円を4%で運用したら、何年後に2倍になるでしょうか？

- 1 15年
- 2 18年
- 3 20年



(答えは裏面にあります！)

## 今月のお知らせ

雛祭りに食べられる「ちらし寿司」の起源は諸説ありますが、江戸時代に備前藩主の池田光政が出した、贅沢を戒める「儉約令」に反発した庶民達が、魚や野菜を目立たないようにご飯に混ぜ、見た目を一菜にした、岡山発祥の「ばら寿司」が原点と言われています。



## コラム インフレ、日本は？世界は？

「物価が上昇している！」と感じている方も多いでしょう。2024年の日本のインフレ率は2.2%でしたが、野菜や果物などの身近な品目は10%以上も値上がりしており、物価上昇を強く実感した方も少なくないかもしれません。

では、世界の状況はどうだったのでしょうか。2022年には、米国を含む先進国で7~8%の物価上昇が見られ、2023年も4%を超える水準が続きました。新興国でも依然として高いインフレが続いており、世界全体で日本以上のインフレが続いているのが現状です。その点、日本の物価は比較的安定しているように見えます。2020年のインフレ率は0%、2021年はマイナス、そして2022年以降は2~3%の範囲で推移しています。

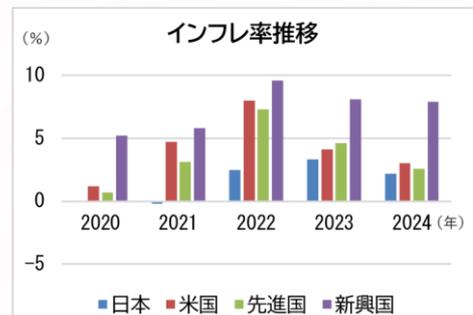
今後も日本では低水準のインフレが続くと予想されています。しかし、必要以上にインフレを恐れるのではなく「低水準のインフレが続く」ことを前提に、将来のライフプランや資産形成を考え、準備していくことが大切でしょう。

### 【世界のインフレ率】

(単位：%)

年	2020	2021	2022	2023	2024
日本	0	-0.2	2.5	3.3	2.2
米国	1.2	4.7	8	4.1	3
先進国	0.7	3.1	7.3	4.6	2.6
新興国	5.2	5.8	9.6	8.1	7.9

出典：IMF (Inflation rate, average consumer prices)



## A マネークイズの答え

答えは 2

お金が2倍になるまでの期間が簡単にわかる計算式として「72の法則」があります。 $72 \div \text{金利}(\%) = \text{お金が2倍になる期間}$ の式に当てはめて計算します。問題の解答は「 $72 \div 4\% = 18$ 年」。つまり18年となります。



## 編集後記

### 金利のある世界へ

昨年3月にマイナス金利政策が解除され、1年が経とうとしています。

定期預金の金利引き上げや住宅ローン追加利上げの発表など、少しずつ「金利のある世界」を意識する機会が増えてきたのではないのでしょうか。

「金利のある世界」への知識を得て、将来に備えていきたいですね。

発行

合同会社さくらコンフォートライフ 鈴木 博幸

新 NISA・資産運用で、お悩みの方は、お気軽に!!

お問い合わせは LINE ID:suzukihiro827 まで!

